

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 17No. 3; Cover, Contents, and others

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10502/00009200 |

1992—17.3号

国立民族学博物館 研究報告

●
永遠の未開文化と周辺民族
——近代西欧人類学史点描—— 清水昭俊

カメルーン北部・フルベ族の挨拶の言語表現—— 江口久

タイにおける共同体文化論の潮流—— チャティップ・ナートスパー

An Overview of Igbo Oral Literature—— Onuigbo G. Nwoye

Au sujet de l'origine des Peuls, d'après les légendes
—— Galina V. Zubko



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

17 卷 3 号

1992 年

目 次

| | | |
|---|------------------|-----|
| 永遠の未開文化と周辺民族 ——近代西欧人類学史点描—— | 清水昭俊 | 417 |
| カメルーン北部・フルベ族の挨拶の言語表現 | 江口一久 | 489 |
| タイにおける共同体文化論の潮流 | チャティップ・ナートスパー | 523 |
| An Overview of Igbo Oral Literature | Onuigbo G. NWOYE | 559 |
| Au sujet de l'origine des Peuls, d'après les légendes | Galina V. ZUBKO | 601 |
| 彙 報 | | 621 |
| 国立民族学博物館研究報告寄稿要項 | | 623 |
| 国立民族学博物館研究報告執筆要領 | | 624 |

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 17 No. 3

1992

| | | |
|--------------------------|--|-----|
| SHIMIZU, Akitoshi | The Eternal Primitive Culture and Peripheral Peoples: A Historical Overview of Modern Western Anthropology | 417 |
| EGUCHI, Paul Kazuhisa | Greetings of the Fulbe of Northern Cameroon | 489 |
| NARTSUPHA, Chatthip | The Community Culture School of Thought in Thailand | 523 |
| NWOYE, Onuigbo Gregory | An Overview of Igbo Oral Literature | 559 |
| ZUBKO, Galina Vasilievna | Au sujet de l'origine des Peuls, d'après les légendes... | 601 |

人事異動

(教育職)

(外国人客員研究部門)

7月2日 第五研究部助教授

NIESSEN, Sandra Ann

(カナダ, アルバータ大学助教授)

海外における研究・調査・収集活動

| 氏名 | 官職 | 出発 | 帰国 | 先行 |
|-------|-------------|---------|---------|---|
| 熊倉 功夫 | 教授 (第一研究部) | 4. 7.12 | 4. 7.22 | 中国 |
| 藤井 知昭 | 教授 (第一研究部) | 4. 7. 9 | 4. 7.17 | 台湾 |
| 須藤 健一 | 助教授 (第四研究部) | 4. 7.14 | 4. 7.26 | ミクロネシア |
| 立川 武藏 | 教授 (第二研究部) | 4. 7.14 | 4. 8. 1 | ネパール, インド |
| 小長谷有紀 | 助手 (第一研究部) | 4. 7.19 | 4. 7.30 | 中国, モンゴル |
| 田村 克己 | 助教授 (第二研究部) | 4. 7.20 | 4.11. 8 | タイ |
| 杉島 敬志 | 助手 (第二研究部) | 4. 8. 1 | 5. 5.31 | オランダ |
| 松澤 員子 | 教授 (第一研究部) | 4. 7. 8 | 4. 8. 5 | 台湾 |
| 宮本 勝 | 助教授 (第二研究部) | 4. 7.25 | 4.11. 2 | マレーシア |
| 片倉 素子 | 教授 (第二研究部) | 4. 7.26 | 4. 8.26 | ドイツ, ラトビア, エストニア, フィンランド, スウェーデン, ノルウェー, アイスランド |
| 和田 正平 | 教授 (第三研究部) | 4. 7.26 | 4. 9. 5 | ケニア, タンザニア |
| 吉本 忍 | 助教授 (第五研究部) | 4. 7.28 | 4. 8.27 | インドネシア |
| 吉田 憲司 | 助手 (第四研究部) | 4. 8. 3 | 4.11. 2 | ザンビア |
| 塚田 誠之 | 助手 (第二研究部) | 4. 8. 5 | 4. 8.19 | 中国 |
| 長野 泰彦 | 助教授 (第五研究部) | 4. 8. 6 | 4. 8.21 | インド |
| 杉村 棟 | 教授 (第三研究部) | 4. 8.10 | 4. 9.24 | イギリス, フランス, イタリア, スイス, ドイツ |
| 秋道 智彌 | 助教授 (第一研究部) | 4. 8.20 | 4.11. 7 | インドネシア |
| 大塚 和義 | 教授 (第五研究部) | 4. 8.13 | 4. 9. 1 | ロシア連邦 |
| 江口 一久 | 助教授 (第三研究部) | 4. 9.10 | 4. 9.20 | アメリカ合衆国 |
| 福井 勝義 | 助教授 (第三研究部) | 4. 9.15 | 4. 9.24 | アメリカ合衆国 |
| 櫻井 哲男 | 助教授 (第五研究部) | 4. 9.19 | 4. 9.28 | 韓国 |
| 須藤 健一 | 助教授 (第四研究部) | 4. 9.27 | 5. 1.21 | ニュージーランド, トンガ, 西サモア, 米領サモア |
| 庄司 博史 | 助教授 (第三研究部) | 4. 8.23 | 4. 9.22 | エストニア |
| 佐藤 浩司 | 助手 (第四研究部) | 4. 9.16 | 5. 1.13 | マレーシア, ブルネイ |

来館者抄

- 7月6日 VIDENOVVA, Tatana (チェコスロバキア, 文化省ジャパン・デスク), BOHACKOVA, Libuse (チェコスロバキア, ブラハ国立博物館作品収集担当, 国際日本文化研究センター客員教授)
- 7月23日 Vanja Joice Bispo Stantos (ブラジル, パラー州文化科学普及博物館事務局補佐)
- 7月25日 砂川恵伸 (琉球大学長)
- 7月28日 中国少数民族文化交流協会代表団一行 団長 陳欣 (中国, 中国少数民族文化交流協会副会長), 田希宝 (中国, 中国少数民族文化交流協会副秘書長), 春世増 (中国, 中国北京民族文化宮主任), 熱合曼・賈斯奈 (中国, 中国少数民族文化交流協会理事), 金鐘国 (中国, 中国少数民族交流協会理事), 牛曉峰 (中国, 中国少数民族文化交流協会幹事), 王海清 (中国, 中国少数民族文化交流協会幹事)
- 8月6日 谷口禎一 (大阪駐在特命全權大使)
- 8月7日 KHAM SING, Sayakone (在日ラオス大使) 夫妻
- 8月21日 星野進保 (総合研究開発機構理事)
- 8月28日 中国国家民族事務委員会一行 高鋭 (中国, 中国国家民族事務委員会外事司司長, 中国少数民族对外交流協会秘書長) 他12名
- 9月4日 貴州省人民对外友好協会一行 団長 龍志毅 (中国, 貴州省人民对外友好協会名誉会長), 王天俊 (中国, 貴州省人民对外友好協会副会長), 常征 (中国, 貴州省人民对外友好協会副会長), 王恒富 (中国, 貴州省人民对外友好協会理事), 方仕平 (中国, 貴州省人民对外友好協会秘書), 李放鳴 (中国, 貴州省人民对外友好協会職員)
- 9月18日 脱若男 (中国, 中国全国人民代表大会秘書局長)
- 9月24日 長野厩士 (近畿財務局長), BAKER, Alan Noel (ニュージーランド, ニュージーランド国立博物館長)
- 9月26日 チュップン (カンボジア, プノンペン芸術大学副学長), ラオキムリアン (カンボジア, 財団法人機械電子検査検定協会研究員)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 17卷3号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

江 口 一 久

崎 山 理

清 水 昭 俊

須 藤 健 一

田 村 克 己

長 野 泰 彦

野 村 雅 一

福 井 勝 義

宮 本 勝

吉 田 集 而

平成5年2月26日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 17卷3号

編集・発行

国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園 10-1

TEL 06(876)2151(代表)

印 刷

中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.17 no.3
1992

- | | |
|---------------------------------|---|
| SHIMIZU, Akitoshi | The Eternal Primitive Culture and Peripheral Peoples: A Historical Overview of Modern Western Anthropology |
| EGUCHI, Paul Kazuhisa | Greetings of the Fulbe of Northern Cameroon |
| NARTSUPHA, Chatthip | The Community Culture School of Thought in Thailand |
| NWOYE, Onuigbo Gregory | An Overview of Igbo Oral Literature |
| ZUBKO, Galina Vasilievna | Au sujet de l'origine des Peuls, d'après les légendes |



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X